

# $p$ 進ポリログと $p$ 進特殊関数

古賀 真輝\*

2023年4月2日

## 0. 目次

---

1	準備	2
1.1	特殊化写像 . . . . .	2
1.2	円板上のリジッド解析関数 . . . . .	2
1.3	$\mathbb{P}_{\mathbb{C}_p}^1 \setminus \{0, 1, \infty\}$ 上のリジッド解析関数 . . . . .	3
2	$p$ 進ポリログ	3

---

\* 私立甲陽学院中学校・高等学校数学科教諭

# 1. 準備

## 1.1. 特殊化写像

定義 1.  $\text{sp} : \mathbb{P}_{\mathbb{C}_p}^1 \rightarrow \mathbb{P}_{\mathbb{F}_p}^1$  を特殊化写像とする. すなわち,  
 $a \in \mathbb{P}_{\mathbb{F}_p}^1$  の  $\text{sp}$  による逆像を,  $]a[$  とかく.

## 1.2. 円板上のリジッド解析関数

ここでは,  $X = \mathbb{P}_{\mathbb{C}_p}^1 \setminus \{0, 1, \infty\}$  とし,  $a \in X$  を中心とする閉円板\*<sup>1</sup>

$$D(a; r) = \{z \in X \mid |z - a|_p \leq r\}$$

を考える. これは, アフィノイド

$$\text{Spm } \mathbb{C}_p \left\{ \frac{z - a}{r} \right\}$$

である. ただし, 関数環は

$$\begin{aligned} \mathcal{A}(D(a; r)) &:= \mathbb{C}_p \left\{ \frac{z - a}{r} \right\} = \left\{ \sum_{k=0}^{\infty} b_k \left( \frac{z - a}{r} \right)^k \mid b_k \in \mathbb{C}_p, \lim_{k \rightarrow \infty} |b_k|_p = 0 \right\} \\ &= \left\{ \sum_{k=0}^{\infty} a_k (z - a)^k \mid a_k \in \mathbb{C}_p, \lim_{k \rightarrow \infty} |a_k|_p r^k = 0 \right\} \end{aligned}$$

である. また,  $a \in X$  を中心とする開円板は,

$$D^\circ(a; r) = \{z \in X \mid |z - a|_p < r\}$$

で与えられる. リジッド解析空間としては,

$$D^\circ(a; r) = \varinjlim_{s \uparrow r} D(a; s)$$

として定義され, 関数環は,

$$\mathcal{A}(D^\circ(a; r)) := \varinjlim_{s \uparrow r} \mathbb{C}_p \left\{ \frac{z - a}{r} \right\} = \left\{ \sum_{k=0}^{\infty} a_k (z - a)^k \mid a_k \in \mathbb{C}_p, \lim_{k \rightarrow \infty} |a_k|_p s^k = 0 \ (\forall s < r) \right\}$$

である.

## 1.3. $\mathbb{P}_{\mathbb{C}_p}^1 \setminus \{0, 1, \infty\}$ 上のリジッド解析関数

\*<sup>1</sup> 位相的に「閉じている」という意味で名付けているわけではない (実際には開かつ閉). 境界を含めているという意味で閉と名付けている

引き続き,  $X = \mathbb{P}_{\mathbb{C}_p}^1 \setminus \{0, 1, \infty\}$  とする.  $D^\circ(a; r, 1) = \{z \in X \mid r < |x - a|_p < 1\}$  とおくと,  $a \in \{0, 1\}$  に対して,

$$\mathcal{A}(D^\circ(a; r, 1)) = \left\{ \sum_{k=-\infty}^{\infty} a_k (z - a)^k \mid \lim_{k \rightarrow \infty} |a_k|_p s^k = 0 \ (\forall s < 1), \lim_{k \rightarrow -\infty} |a_k|_p t^k = 0 \ (\forall t > r) \right\}$$

## 2. $p$ 進ポリログ

**定義 2.**  $\mathbf{a} = (a_1, a_2, \dots, a_k) \in \mathbb{Z}_{>0}^k$  に対して,  $p$  進多重ポリログ ( $p$ MPL)  $\text{Li}_{\mathbf{a}} : ]0[ \rightarrow \mathbb{C}_p$  を,

$$\text{Li}_{\mathbf{a}}(z) = \sum_{\substack{m_1 < m_2 < \dots < m_k, \\ m_i \in \mathbb{Z}_{>0}}} \frac{z^{m_k}}{m_1^{a_1} m_2^{a_2} \dots m_k^{a_k}} \quad (2.1)$$

で定義する.  $z \in ]0[$  において右辺の級数が収束することは, 以下の命題による.

**命題 3.** 上の定義で,  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(z)$  は  $]0[$  で収束し,  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(1)$  は発散する.

**[証明]**

$p$  進における無限級数  $\sum_{n=1}^{\infty} s_n$  が収束することと,  $p$  進の意味で  $\lim_{n \rightarrow \infty} s_n = 0$  であることが同値な

ことに注意しよう.  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(z)$  の  $z^N$  の係数を  $t_N^{(k)} := \sum_{\substack{m_1 < m_2 < \dots < N, \\ m_i \in \mathbb{Z}_{>0}}} \frac{1}{m_1^{a_1} m_2^{a_2} \dots N^{a_k}}$  とする.

$$\begin{aligned} \min_{m_1 < m_2 < \dots < N} \text{ord}_p \frac{1}{m_1^{a_1} m_2^{a_2} \dots N^{a_k}} &= - \max_{m_1 < m_2 < \dots < N} \text{ord}_p (m_1^{a_1} m_2^{a_2} \dots N^{a_k}) \\ &\geq -(a_1 + \dots + a_k) \log_p N \end{aligned}$$

であるから, 超距離不等式より

$$|t_N^{(k)}|_p \leq p^{(a_1 + \dots + a_k) \log_p N} = N^{(a_1 + \dots + a_k)}$$

である.  $|z|_p < 1$  であるならば,

$$|t_N^{(k)} z^N|_p \leq N^{(a_1 + \dots + a_k)} |z|_p^N \rightarrow 0 \quad (N \rightarrow \infty)$$

であるから,  $p$  進における無限級数の収束条件から,  $|z|_p < 1$  において  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(z)$  は収束する.

次に,  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(1)$  が発散することを  $k$  に関する帰納法で示す.  $k = 1$  のときは,  $|t_N^{(1)}|_p = |N^{a_1}|_p^{-1} \geq 1$

より,  $\sum_{N=1}^{\infty} t_N^{(1)}$  は発散する.

次に  $k > 1$  のときは,

$$|t_N^{(k)}|_p = |N^{a_k}|_p^{-1} \cdot \left| \sum_{i=1}^{N-1} t_i^{(k-1)} \right|_p \geq \left| \sum_{i=1}^{N-1} t_i^{(k-1)} \right|_p$$

であり、帰納法の仮定から  $\sum_{i=1}^{N-1} t_i^{(k-1)}$  は  $N \rightarrow \infty$  のとき発散するので、 $t_N^{(k)}$  は 0 に収束しない。  
したがって、主張が示された。 ■

補題 4.  $z \in ]0[$  とすると、

$$\frac{d}{dz} \text{Li}_{\mathbf{a}}(z) = \begin{cases} \frac{1}{z} \text{Li}_{a_1, \dots, a_{k-1}}(z) & (a_k \geq 2) \\ \frac{1}{1-z} \text{Li}_{a_1, \dots, a_{k-1}}(z) & (k \geq 2 \text{ かつ } a_k = 1) \end{cases}$$

$$\frac{d}{dz} \text{Li}_1(z) = \frac{1}{1-z}$$

[証明]

$a_k \geq 2$  のとき、

$$\frac{d}{dz} \text{Li}_{\mathbf{a}}(z) = \sum_{\substack{m_1 < m_2 < \dots < m_k, \\ m_i \in \mathbb{Z}_{>0}}} \frac{z^{m_k-1}}{m_1^{a_1} m_2^{a_2} \dots m_k^{a_k-1}} = \frac{1}{z} \text{Li}_{a_1, \dots, a_{k-1}}(z)$$

$k \geq 2$  かつ  $a_k = 1$  のとき、

$$\begin{aligned} \frac{d}{dz} \text{Li}_{\mathbf{a}}(z) &= \sum_{\substack{m_1 < m_2 < \dots < m_k, \\ m_i \in \mathbb{Z}_{>0}}} \frac{z^{m_k-1}}{m_1^{a_1} m_2^{a_2} \dots m_{k-1}^{a_{k-1}}} \\ &= \sum_{\substack{m_1 < m_2 < \dots < m_{k-1}, \\ m_i \in \mathbb{Z}_{>0}}} \frac{z^{m_{k-1}}}{m_1^{a_1} m_2^{a_2} \dots m_{k-1}^{a_{k-1}}} (1 + z + z^2 + \dots) \\ &= \frac{1}{1-z} \text{Li}_{a_1, \dots, a_{k-1}}(z) \\ \frac{d}{dz} \text{Li}_1(z) &= 1 + z + z^2 + \dots = \frac{1}{1-z} \end{aligned}$$

補題 5.  $\frac{1}{z}, \frac{1}{1-z} \in \mathcal{A}_{\text{Col}}(X)$  である。

[証明]

$a = 0$  のとき、

$$\frac{1}{z} \in \mathcal{A}(D^\circ(a; 0, 1))$$

である。

$|a|_p = 1$  なる  $a$  に対しては、

$$\frac{1}{z} = \frac{1}{a+z-a} = \sum_{k=0}^{\infty} a^{-(k+1)} (a-z)^k$$

であることと  $|a^{-(k+1)}|_p = 1$  より、 $\frac{1}{z} \in \mathcal{A}(D^\circ(a; 1)) \subset \mathcal{A}_{\text{Col}}(]a])$  である。

$a = \infty$  のとき,  $z = \frac{1}{w}$  の変数変換をすれば, 明らかに  $w = 0$  の近傍でリジッド解析関数であることが分かる. 以上から,  $\frac{1}{z} \in \mathcal{A}_{\text{Col}}(X)$  である.  $\frac{1}{1-z}$  についても,  $1-z = w$  の変数変換をすることで  $\frac{1}{z}$  と同様の議論となる. ■

ここで,

$$\text{Li}_{\mathbf{a}}(z) = \begin{cases} \int_0^z \frac{1}{t} \text{Li}_{a_1, \dots, a_{k-1}}(t) dt & (a_k \geq 2) \\ \int_0^z \frac{1}{1-t} \text{Li}_{a_1, \dots, a_{k-1}}(t) dt & (k \geq 2 \text{ かつ } a_k = 1) \end{cases} \quad (2.2)$$

$$\text{Li}_1(z) = \int_0^z \frac{1}{1-t} dt = -\log^{\varpi}(1-z) \quad (2.3)$$

によって帰納的に定義することで,  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(z) \in \mathcal{A}_{\text{Col}}(X')$  を定めたい ( $X' = \mathbb{P}_{\mathbb{C}_p}^1 \setminus \{1, \infty\}$ ).

**補題 6.** (2.2), (2.3) によって,  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(z)$  は  $\mathcal{A}_{\text{Col}}(X')$  の元で,  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(0) = 0$  であるようなものとして定まる.

**[証明]**

まず, 補題 5. によって,  $\frac{1}{1-z} \in \mathcal{A}_{\text{Col}}(X)$  であり,  $]0[$  では級数展開よりリジッド解析関数であるから,  $\frac{1}{1-z} \in \mathcal{A}_{\text{Col}}(X')$  である. これを積分することで,  $\text{Li}_1(z) \in \mathcal{A}_{\text{Col}}(X')$  として定まる. さらに,  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(0) = 0$  であることは積分から明らかである.

次に,  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(z)$  が題意のように定義されているとすると, 補題 5. によって  $\frac{1}{1-z} \text{Li}_{\mathbf{a}}(z), \frac{1}{z} \text{Li}_{\mathbf{a}}(z) \in \mathcal{A}_{\text{Col}}(X')$  である. ただし  $]0[$  では,  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(0) = 0$  より,  $\frac{1}{z} \text{Li}_{\mathbf{a}}(z)$  は ( $z = 0$  でも値が定まる) リジッド解析的な関数になっていることに注意する. 積分してできた関数も  $\mathcal{A}_{\text{Col}}(X')$  の元である. そして, 積分の形から  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(0) = 0$  であることもわかる. よって, 帰納的に主張が示された. ■

**定義 7.** 補題 6. によって定まる  $\text{Li}_{\mathbf{a}}(z)$  を, (Coleman 関数としての)  $p$  進多重ポリログ ( $p$ MPL) という.